

問 油木高校の存続に赤信号

片山元八郎議員



答 実情に応じて対応したい

Q 「油木高校を育てる会」会長として、今春の油木高校への町内中学生進学率43%をどう思うか。
A 町長 大変な危機感を覚えた。平成17年の45%以外は、毎年50%を越えている。V字回復を目指す。神石中からのアクセスをよくするため、県道牧油木線の改良を6人の県議に働きかけた。
Q 教育長は、この危機的状況をどう分析すか。
A 教育長 普通科への進学率が過去最低。専門学科への進学増も影響。大学への進学実績のPR不足。進路指導での中学校との連携不足も影響。
Q 昨年11、12月に町内全中学生を対象にアンケート調査が実施された。あなたは、油木高校に進学したいと思いませんか。
A 教育長 ①思う29%②思わない

副町長が182sの社長を務めていることで、町が直接ローソンと関わっているかに解釈されがちだが、実は、182sの中のローソンである。その理解で良いか。
A 町長 その通りだ。
Q ローソンの意義は。
A 町長 誘致について、若者達からコンビニのない町は広島県でもわが町だけだ。そういう強い要望があるか。
A 教育長 普通科への進学率が過去最低。専門学科への進学増も影響。大学への進学実績のPR不足。進路指導での中学校との連携不足も影響。
Q 昨年11、12月に町内全中学生を対象にアンケート調査が実施された。あなたは、油木高校に進学したいと思いませんか。
A 教育長 ①思う29%②思わない

31%③わからない40%
将来どんな仕事をしたいか、子どもの発達段階に応じて、教育現場でしっかり指導すべきだ。(世界のイチロー選手が、小学六年生の時書いた作文「なりたいたいものになるために」を紹介。)
油木高校1クラス40人の枠を取っ払え。県教委に特別措置を認めさせよ。
A 教育長 油木高校は、県立高校なので、特区扱いは無

理。現時点で、県教委の油木高校に対する評価は高く「一喜一憂せず教育効果を高め、町外からも進学者数を増やすように」努めていきたい。



油木高校文化祭 ナマズかば焼き販売

問 182ステーションへ同棲ローソンの目指すもの

小林 貢議員



答 地域経済の拠点に

Q 町・182ステーション(182s)・ローソンの関係について。
A 町長 182sとローソンの関係は、182sの経営の中に、182s独自の経営と、ローソン経営がある。
町とローソンとの関係は、182sが町の第三セクターであることから、町が182sの経営内容に関わることで、ローソンへ間接的に関わることになる。たまたま、

副町長が182sの社長を務めていることで、町が直接ローソンと関わっているかに解釈されがちだが、実は、182sの中のローソンである。その理解で良いか。
A 町長 その通りだ。
Q ローソンの意義は。
A 町長 誘致について、若者達からコンビニのない町は広島県でもわが町だけだ。そういう強い要望があるか。
A 教育長 普通科への進学率が過去最低。専門学科への進学増も影響。大学への進学実績のPR不足。進路指導での中学校との連携不足も影響。
Q 昨年11、12月に町内全中学生を対象にアンケート調査が実施された。あなたは、油木高校に進学したいと思いませんか。
A 教育長 ①思う29%②思わない

あったし、店舗誘致だけでなく、大手企業と連携することで、ローソン号による集落支援・ローソンファームによる農業生産拡大と産品販売拡大・定住促進などに向けた多面的な事業展開戦略と考えている。
経営母体の182sに入込客も増え、本業である直売所として盛況を博している。条件の良い地の利を活かしながら、生産者と一体となって産品の販売、農業振興、入込



さんわ182ステーション内のローソン

客の観光案内、設備の充実などを行い、南の玄関口として恥じない店となるよう、ローソンと共に連携しながら、地域経済の拠点となるよう取り組んでいきたい。

問 3期目挑戦へのマニフェストを明らかに

瀬尾征爾議員



答 若者の定着が第一

Q 町長は、3期目の出馬を表明された。この7年間の実績は高く評価されるが、3期目の4年間はまさに集大成の期と思う。
A 町長 財政の厳しさも予想されるが、政権公約の柱を明らかにされたい。
A 町長 公約というよりは目指す政策目標に置き換えて理解してもらいたい。今後財政運営は厳しくな

り拡大基調はとれないので、さらに選択と集中が必要である。
政策の柱は人口減少に歯止めをかけることであり、若者の定着が第一だ。基幹産業の農林業に徹して定着を考えたい。
第2、第3のトマト団地をつくり全国の若者を集めたい。
森林資源の活用で、木質バイオマスにシフトして、若者の雇用確保が、

目指す政策的な大きな課題と思っている。
人件費の抑制が必要だがワークシェアリングして、一定の職員を確保しながら臨職賃金を含めた人件費総額を増やさない方法で考えたい。
Q こんにやく栽培は、300年の歴史があり、和牛とともに町を代表する特産品である。
A 町長 こんにやくを「黒」の産品の柱にのせてブドウ栽培並みの補助制度を設けるべきでは。
A 町長 いったん手を引いたものを復活するには、相当のエネルギーを要する。こんにやく栽培を奨励するには、トマトのように圃場整備を行政が行いメニュー化して若者に選択肢を与えることも必要だ。赤と黒のプロジェクトに入れるのは、やぶさかではない。

II その他の質問 II
県道から、「湯つ蔵さんわ」に通じる片側を歩道にしたらどうか。



こんにやく栽培中

問 病児保育に取り組むべきでは

藤田晃己議員



答 前向きに検討する

Q 子育て支援の一貫として病児保育に取り組むべきでは。
A 町長 本町では、取り組んでいないので前向きに研究・検討してみたい。
Q 町立病院を利用し、病院併設型がベストではないか。
A 町長 病院との協議も必要。病院の了解があれば、前向きに検討したい。

Q 保育所の指定管理は必要か。
A 町長 子供子育て新システムもはつきりしていない。国の方針を見極めていきたい。
Q 以前、検討委員会を立ち上げるといわれたがその後の取り組みは。
A 町長 以前の検討委員会は指定管理の制度導入についてメリットとデメリット

トの精査と住民の声を聞く必要があったが、国の方針が変わったので今は中断している。
Q 新規就農者支援事業の現状と課題は。
A 町長 平成21年度からの取り組みで9人の新規就農者が現在8人である。所得350万円のハードルは高いが、意欲のある人を支援していきたい。

Q 1年目月額10万円、2年目月額7万円だけではなく、もう少し継続的な支援、指導が必要ではないか。
A 町長 全体的に全てに支援というのは難しいが、真摯に取り組む人には技術的な踏み込んだ支援をやらないと、本当の新規就農者にはなれないと思っている。

病児保育とは
児童が病気の状態にあり集団保育が困難な時期、医療機関に付設された保育室で一時的にお預かりすること。

あなたの声を町政に

一般質問時間は、一人30分
一問一答方式で行いました